

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 キアンコウ

学名 *Lophius litulon*

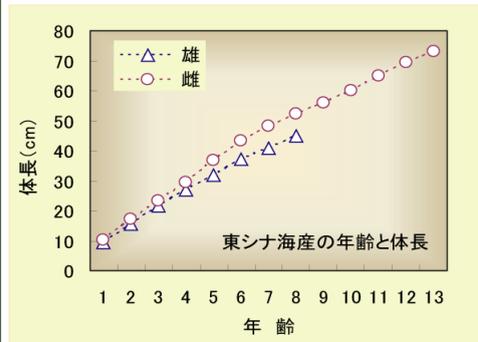
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
 成熟開始年齢: 雄5歳、雌8歳(東シナ海産に関する知見)
 産卵期・産卵場: 5~7月、産卵場は不明
 索餌期・索餌場: 周年、水深30~400m
 食性: 魚類、頭足類
 捕食者: ミズウオ



漁業の特徴

キアンコウは太平洋北部海域では沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業を主体に、底刺網や定置網漁業でも漁獲されている。しかし、漁業種類別水揚量資料は十分には整備されておらず、青森県~茨城県の全県で漁業種類別にキアンコウの漁獲量が把握できるのは2000年以降である。福島県や茨城県では1990年頃から水揚量が増加している。また、水揚げされたキアンコウの体長組成から未成魚を主体に漁獲していると推定される。

漁獲の動向

沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書に基づく漁獲統計資料によると、漁獲量は1973年の423トンから1978~1989年には50トン以下の低水準に減少した。1991年以降は急激に漁獲量が増加し、1997年に1,081トンに達した。1998年には679トンに減少したが以後2000年を除き500~600トン台の高い水準で推移した。2005年の漁獲量(暫定値)は375トンと減少し、沖底によるキアンコウの漁獲は2002年以降では減少傾向である。

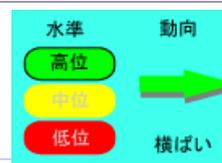


資源評価法

各県調査による漁業種類別の水揚量と、1973年から資料がある沖合底びき網漁船の漁獲成績報告書に基づく漁獲量の動向から資源状態を判断した。

資源状態

沖合底びき網漁船による漁獲量は1991年以降急激に増加し、1997年には1,081トンと最高値となった。1998年には減少しその後は500~600トン程度で推移しているが、2002年以降では減少傾向である。しかし、この沖底漁獲量の減少は、他の重要種へ漁獲努力が向けられたことも一因と考えられる。一方、青森、宮城、茨城の漁業種類別漁獲量の合計値は、1997年以降は2000年を除き900~1,000トンで推移し、沖合底びき網のCPUEも1970年代とほぼ同じ比較的高い水準にある。従って、資源水準は高位で、資源動向は横ばいと判断される。



管理方策

現在の資源は高水準と考えられるため、現状の資源量を維持することを管理目標とする。2003~2005年の漁獲量の平均からABCを算定した。単価の低い産卵期(5~7月)における産卵親魚を保護することを検討する必要がある。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,300トン	Cave3-yr	-	-
ABCtarget	1,100トン	0.8Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 沖合底びき網漁船の漁獲量は1991年に急増、1998年以降は比較的高い水準で安定、最近年では努力量の減少により漁獲量は減少

- 青森、宮城、茨城の漁業種類別漁獲量の合計値も、1997年以降は2000年を除き900～1,000トンの高い水準で推移している

- 漁獲物の多くが未成年

管理方策のまとめ

- 現状の資源量の維持を目標
- 成長乱獲を避けることが必要
- 単価の安い産卵期(5～7月)の産卵親魚の保護が必要

資源評価は毎年更新されます。